

## 重点教科の研究報告①<地歴公民科>

### 【教科のテーマ】

社会科における「主体的・対話的で深い学び」を実現するための ICT 活用をめぐる一考察  
～多角的な視野・課題解決力・情報活用能力の獲得を目指して～

### 1 はじめに

新学習指導要領の実施が来年度に迫っている。2016 年末の中央教育審議会の答申では資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味について比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりする力が不十分である点や、課題を追究および解決する活動を取り入れた授業が十分に行われていない点などが課題として挙げられていた。これらを踏まえて地歴公民科では生徒が多角的な視野をもち、情報を活用しつつ、現代につながる諸課題に対して主体的に臨む態度を育成する取組を模索してきた。

また、情報化社会が進行するなかで、本校では 1 人 1 台タブレット端末が全生徒に配付されている。新型コロナウイルス感染症にともなう、休校等の措置に対応する必要も検討しなくてはならない状況になっていることも踏まえると、ICT 機器の教育現場での活用は急務であると考えられる。

このような状況下で、本校では「ICT を活用した主体的・対話的で深い学びを推進するための取組」を行ってきた。本年度地歴公民科での取組をまとめると、以下の 4 点である。

- (1) 生徒用タブレットを活用した授業実践
- (2) 教員用タブレットを活用した例
- (3) 「思考力・判断力・表現力」を重視した考査問題の出題
- (4) 臨時休校中や学校外における「主体的・対話的で深い学び」のための ICT 活用  
今回の報告ではいくつかの事例を紹介する。

### 2 実践内容

#### (1) 生徒用タブレットを活用した授業実践

**事例 1** 2 年生 日本史 A 条約改正交渉（「初期議会と条約改正交渉」より）

##### ア 目的

- (ア) 当時の様子を描いた浮世絵や風刺画を通して、必要な情報を読み取り、作品が示唆する意味を考察する事ができる。
- (イ) 条約改正交渉について、改正交渉までの流れとそれぞれの外務大臣が行った施策について理解を深める事ができる。

##### イ 研究準備及び方法

- (ア) 前後の授業
  - a 当該授業を行うに当たり、初期議会について学習する中で国会開設にあたり、民権派が三大事件建白運動の中で『外交失策の挽回(条約改正交渉)』を要求していた事を確認し、政府にとっても重要な政治課題である事を強調した。
  - b 条約改正交渉についての学習後には、およそ半世紀という長期に渡る交渉の結果、日本が欧米列強と条約の上で対等になった事を確認し、一方で日本が中国や朝鮮と締結していた諸条約にも触れ、不平等条約をめぐる日本の立ち位置について再度確認を行った。

##### (イ) 準備したもの

生徒用タブレット、授業用プリント 1 枚(A4)、授業用ワークシート 1 枚(B4)、教員用タブレット、プロジェクター、スクリーン

- (ウ) 実施方法：授業内の活動：ロイロノートにて意見を提出。その後スクリーンにて全体で共有。
  - a 鹿鳴館で行われた舞踏会の様子を描いた浮世絵を見て、どのような印象を受けたか、自分の意見をまとめる。
  - b 風刺画『生意気な猿真似』（ジョルジュ＝ビゴー）を見て、当時外務卿・井上馨が進めていた「欧化主義政策」がどのように捉えられていたかを考察する。
  - c 宿題：授業の内容やタブレット活用に関する簡易なアンケートを実施する。

##### ウ 結果

- (ア) 授業内での活動に関して
  - a 一学期末に文明開化時の横浜を描いた浮世絵で同様の取組を実施したため、舞踏会の様子から様々な印象をまとめる事ができていた。また、設定した時間よりも比較的速く取組を終える生徒が散見された。

- b ビゴアの風刺画から欧化主義政策の捉え方を考察する取組では、生徒によって様々な意見があり、外国人から見た諸政策について理解を深める事ができた。
- c おおよその生徒が指定した活動について問題なく取り組む事ができたが、一部ロイロノートの操作に時間を要する生徒もいたので、活動のための時間設定を考慮する必要性を感じた。

(4) 宿題に関して

ロイロノートにて作成したアンケートでは、ICT 機器やタブレットを用いた授業内容の知識の深まりについて一定の意見が得られた一方で、「タブレット操作に不安がある生徒もいる。」や「操作には慣れが必要である。」などの意見が得られた。全体での話し合いに一定の配慮が必要な時勢であるので、今後も1人1台タブレットを使用していく上で、配慮や指導する必要性を感じた。

エ 考察

(7) 授業内の活動に関して

他単元においても「自らの意見をまとめる」という取組は行っているが、当該クラスでは比較的短文で自らの意見をまとめる傾向にある。その際、的確に自らの考えを表現し意見としてまとめられる生徒がいる一方で、表現したい事はあるが適切に表現ができず、早々に諦めてしまったり、全体ではなく表現ができる所のみを提出したりする生徒もいた。分量に関わらず、アウトプットの練習を全体的に行う機会を増やす事を検討している。

(4) 宿題に関して

ロイロノートを用いた意見やアンケートの集約に関して、操作に慣れない生徒への配慮が必要である一方、授業内で意見発表に消極的な生徒が、鋭い意見や多くの意見を寄せてくれた事もあった。今後は宿題にしている意見集約を授業内で行い、その場で全体に共有する手法を盛り込んだ授業案を考えていきたい。

**事例2** 3年生 現代社会 労働問題「2018年就職人気ランキングに入る業種を予想しよう」

ア 目的

- (7) 様々な資料から、情報を読み取ることができる。
- (4) 読み取った情報を根拠として、思考・判断することができる。

イ 研究準備及び方法

(7) 前後の授業

労働問題について基本事項に関する知識を理解させうえて、本単元を実施した。

(4) 準備したもの

生徒用タブレット、ワークシート1枚(A4)、資料プリント1枚(A4)、教員用タブレット、プロジェクター、スクリーン

(ウ) 実施方法

本単元は2時間で計画した。1時間目は「2005年大学生就職人気企業ランキング」や2005年と2017年を比較した「産業別賃金」「産業別倒産状況」などの資料を読み取らせた。多面的な読み取り方があることを理解させるため、クラスメイトの読み取った情報を共有しながら進めた。共有手段としてロイロノートを用いた。2時間目はまず、読み取った情報を根拠とし、2018年に就職人気ランキングに入る業種について思考・判断させた。その後、資料を解釈し思考・判断する独自問題(2問)に取り組ませた。

ウ 結果

- (7) 評価規準を独自問題2問正解はA、1問正解はB、正解無しはC評価と設定した。A評価が33%、B評価が59%、C評価の生徒が8%であった。

- (4) ロイロノートによる情報共有は、生徒に板書させるよりも早かった。

エ 考察

- (7) 本実践を通して、資料解釈の技能、思考力・判断力を使うトレーニングができたと考える。これらの力は、繰り返し発揮させる場を設定することで育成できるはずだ。今後も継続的に実践していきたい。C評価の生徒に対しては、別途に考え方を解説したが、現時点で実効性は不明である。今後の実践において検証したい。

- (4) 主体的・対話的で深い学びを実践するにあたって、授業時間数確保との兼ね合いが課題であった。今後、より効果的にICT機器を活用することによって課題解決できる可能性を感じた。

**事例3** 1年生 地理 ヨーロッパの生活・文化

ア 目的

- (ア) ヨーロッパの地理的条件が、ヨーロッパの民族構成や農業・工業などの土台となっていることを理解する。
- (イ) ヨーロッパの文化が、それぞれどのような地理的条件のもとに成り立っているかを考察し、自分の考えをまとめることができる。

イ 研究準備及び方法

本単元は6時間で計画した。タブレットを用いて1時間ごとにヨーロッパの地理的特徴を、農業・工業・民族などの様々な観点から学習する中で、興味・関心を広げていく。また、ロイロノートのシンキングツールを使用することで、生徒の思考体形の形成や意見表明をサポートする。

ウ 本実践を通して期待できる学習成果

- (ア) 本実践の中でロイロノートのシンキングツールを利用することによって、生徒が自らの思考を可視化できる。さらに思考が整理されることで、生徒が自身の頭の中で考えをまとめる場合以上に、一つの物事に対する解答がより多面的になることが期待できる。生徒自身がより効果的なシンキングツールを選択することは、生徒の思考を促しているといえることができる。
- (イ) 教科書や資料集以外の画像を、教員が提示しようとするとき、多くの場合は白黒の画像を提示する。これに対して、タブレットを通じて教員側がカラーの画像を提示したり、さらに資料集以上のことを生徒自身が調べたりすることで、現代の地理的諸課題の考察に必要な知識を主体的に得ることができる。また、当該教科への興味関心が高まることで、次年度学習する歴史の各科目にも応用できる地理的な考察力を養うことができると考える。

**事例4** 2年生 日本史B 「鎌倉時代はいつから始まるのだろうか？」

～6つの説を比較し、鎌倉幕府の成立年を考察してみよう～

ア 目的

- (ア) 生徒間の意見共有を通し、「治承・寿永の乱」や「鎌倉幕府」への理解を深めることができる。
- (イ) 鎌倉幕府はいつ成立したと言えるのか、自分なりの根拠を資料から探し、考察・表現することができる。
- (ウ) 鎌倉幕府成立年の諸説に触れるなかで、歴史的なものの見方を身につけることができる。

イ 研究準備及び方法

(ア) 前後の授業

前：「治承・寿永の乱」の展開と内容について、パワーポイントを活用しながら学習した。  
後：鎌倉幕府の支配機構や政治について学習した。

(イ) 準備したもの

生徒用タブレット、ワークシート1枚 (B4)、資料プリント1枚 (B4)、教員用タブレット、プロジェクター、スクリーン

(ウ) 実施方法

宿題として、鎌倉幕府の成立年にまつわる6つの説についての論文や教科書の記述をまとめた資料プリントを読ませておいた。なお、これはロイロノートの資料箱にPDFファイルとしてアップロードした。授業の展開は以下のとおりである。

- a 6つの説から、自分はどの説を支持するのか、根拠を含めてロイロノートのカードに書かせる。
- b 4～5人でグループを作り、メンバーの意見を比較させる。話し合いを通し、グループで1つの意見にまとめさせ、支持する成立年とその根拠をロイロノートのカードに書かせる。
- c 提出したカードを黒板にプロジェクターで投影しながら、代表者に発表をさせる。
- d 発表を聞いた後、改めて自分の支持する成立年とその根拠をロイロノートのカードに書かせる。あわせて本時の授業の感想も書かせ、それぞれ提出させる。提出されたものにコメントを書き加えて生徒に返却する。(ロイロノート上でクラス間共有する。)
- e 定期考査に「鎌倉幕府の成立年については6つの説がある。そのうち、どれが最も有力だと思うか。歴史的根拠を示して、自分の考えを100字程度で記述しなさい。」という問題を出題する。

ウ 結果

- (ア) クラスメイトとの議論を通し、一人ひとりが自分の意見を、根拠をもって考察・表現することができたと考える。

※生徒意見の例：「いつもは習ったことについて自分でしっかり考えたことがなかったけど、こ

の機会を通していろいろな説を考えることの楽しさを知れた。みんなと話し合うことでいろいろな考えを自分に取り入れることができよかった。」

- (イ) 自らが支持する成立年を書くうえで、前時までに学習したことを活用することが必要になる。生徒は教科書や図説、授業プリントを見直し、鎌倉時代への理解度を深めることができたと考える。

※生徒意見の例：「鎌倉幕府成立前後のことや、その前までのところを復習できたのでよかった。」

- (ウ) 日本史を苦手とする生徒の多くは、歴史を暗記科目と捉えている生徒が多い。歴史を学ぶ際に、1つの事象には様々な側面が存在し、それが考察する時代や立場によって変化するのだという視点は必須である。本時の授業を通し、「鎌倉幕府の成立年」を丸暗記するのではなく、「鎌倉幕府はどのように成立したのか」ということを、根拠をもって考察することが重要であり、必ずしも正解は1つではないのだということが多くの生徒に理解させられたと考える。

※生徒意見の例：「小・中学校のときには、1192年説と習ったが、研究が行なわれていくうえで、年代や内容が変わったりすることは、歴史のおもしろいところだと思った。」

- (エ) 定期考査において、ルーブリックをもとに採点をした。歴史的用語を3つ以上活用して80字以上記述できた生徒（10点満点）が8割を超えた。

- (オ) ロイロノートを活用することで、生徒に板書させるよりも情報共有がスムーズに行えた。また、生徒の意見をクラス間共有することも時間をかけずにでき、フィードバックを教員が作成した時と比べ、その手間は大幅に削減できた。生徒がスピード感をもって授業を振り返ることができるので、効果は大きいと感じた。

## ② 教員用タブレットを活用した例

### 事例1 2年生 世界史B イスラームの社会と文明

#### ア 目的

- (ア) 動画資料から情報を読み取る。  
(イ) 読み取った情報をもとに、イスラーム文化への理解を深める。

#### イ 研究準備及び方法

- (ア) 前後の授業  
イスラーム教の拡大とともに、コーランの解釈が本来の内容から離れ、イスラームが変容していくことを理解させた。

- (イ) 準備したもの  
教員用タブレット、プロジェクター、授業プリント

- (ウ) 実施方法  
資料集を用いてイスラームの一般的な礼拝の画像と、イスラーム神秘主義教団（メヴレヴィー教団）の画像を比較させる。その後実際の動画を視聴させて、二つの違いを確認させる。

- (エ) 結果  
動画を視聴することで、イスラーム神秘主義の動きを確認することができた。そしてこの内容がコーランの内容と差異があることを理解することができた。

- (オ) 考察  
動画を視聴することで、イスラームの文化の違いを視覚的に確認することができた。写真で教員が説明するよりも、動画を見ることでより具体的に違いを把握することができる。今後より効果的にICTを使った授業を展開していきたい。

## ③ 「思考力・判断力・表現力」を重視した考査問題の出題

#### ア 目的

- (ア) 「記述」をすることに対して苦手意識を持つ生徒に対し、考査の記述問題を通じて、主体的に取り組む姿勢を身につけさせるとともに、歴史を「ただ暗記する」科目から、「考えて表現する」科目へと、臨む姿勢を変化させる。

- (イ) 歴史的事象に対して、教科書に記載されている視点の枠を外して自由に記載させることで、様々な視点・価値観を涵養する。

#### イ 研究の内容と考察

**事例 1** 3年世界史B [英仏第二次百年戦争における勝者とは～ユトレヒト条約を起点に考える～]

**【概要】**

本校で使用している教科書である山川出版社『詳説世界史B』では、P.228に、「ユトレヒト条約(13年)によって、スペイン・フランスは合同しないという条件でブルボン家のスペイン王位継承を各国に認めさせた。」と記載されている。また、P.234～235にかけて、「イギリスはスペイン継承戦争の結果、フランスから北アメリカの領土を獲得し…」と記載されており、ユトレヒト条約による英仏それぞれの立場の変化が併記されている。

**【出題形式と生徒の解答の様子】**

考查においては、「英仏それぞれの立場を対比したとき、あなたはどちらが勝利したと考えるか」を40字以内での記述形式にて出題した。当初は北米において領土を拡大したイギリスの勝利とする考えが多いと予想したが、生徒の解答は、両方の立場がそれぞれ半数ずつであった。領土的な意味でイギリスの勝利とする考え方もあったが、フランスが目的としていたヨーロッパでの影響力の拡大が成功したことを勝利ととらえた生徒もいた。

**【考察】**

特定の立場によらず、生徒一人一人の考えを記述式で出題したことにより、生徒の表現力を養うことができると考える。また、表現をするために思考・判断し、よって、知識の暗記だけにとどまらない考查問題を作成することができたと考える。以後も、生徒の思考力・判断力・表現力を涵養する「問い」を考え、考查問題としたい。

**④ 臨時休校中や学校外における「主体的・対話的で深い学び」のためのICT活用**

**事例 1** 2年日本史B オンラインでの授業プリント配布

**ア 目的**

令和二年度に実施された二か月間の臨時休校の際、学校のホームページに授業プリントの完成版をアップロードした。その成果もあり、授業進度も大幅に遅れることはなく、また、例年と比較しても、臨時休校が成績に与えた影響もあまり感じることはなかった。休校中以外でもオンラインでの授業プリントの活用の可能性を探った。

**イ 実施方法**

- (ア) 夏休みの課題として、ロイロノートにPDF化した文化史プリントをアップロードする。
- (イ) 教科書や図説から適語を探し、授業プリントを完成させる。
- (ウ) 1～2週間後に、教員が完成させた文化史プリントをPDF化してアップロードする。

**ウ メリット・デメリット**

- 夏休み明けの授業では補足をするのみでよくなり、授業進度が早まる。
- 夏休みの時間を有効活用できる。
- 暗記の比重が重い単元は、生徒自身がプリントを完成させることで、知識の定着につながる。
- ▼プリンターがない生徒は、プリントをダウンロードし、印刷することができない。
- ▼意識の差によって、プリントの完成度は生徒間で大きく異なった。

**3 研究のまとめ**

地歴公民科という教科の特性上、知識の定着は欠かせない要素である。教科の特性上、授業の内容がインプットに偏る傾向は否めないが、ICT機器の導入にともない、動画や図版資料で視覚、聴覚に、または原史料で触覚に、級友との意見共有により心理面にも訴え、記憶の定着を促すことができる。昨今求められる能力と基礎知識の定着は表裏一体のものであると考える。そのため生徒に身に付けさせたい知識・技能をいかに多面的に授業内で提示できるか、体験させることができるか、という点も課題であると考え。こうした取組はICT機器が普及する以前から、工夫が重ねられてきたことではあるが、機器の発達により、一層容易に、スピード感をもって行うことが可能となっている。一方で社会に求められる人材を育成するという観点から、「はじめに」でも述べたとおり、知識先行ではなく生徒が多角的な視野をもち、情報を活用しつつ、現代につながる諸課題に対して主体的に臨む態度を養う授業を構築する取組は急務である。本研究ではICT機器を活用する際も効率的な知識の定着を図るためと、それを踏まえた上での生徒間や教員と生徒の間での双方向的な意見交換や共有をおこなうためのツールとして、多面的な目的をもって活用することを心がけた。

本校の生徒は授業に対して落ち着いて取り組むことができる一方、積極的に思考し、意見を発表するなどの活動については苦手意識を持つ生徒も多くいる。意見を発表することに慣れていない生徒にとって、大勢の前で意見を披露することは心理的な障壁も高い。しかしICT機器の導入

により、必ずしも自発的に挙手をし、大勢の前で発表をするという形をとる必要がなくなったためか、生徒間の意見共有を円滑にすることができた。また、地歴公民という科目を苦手とする生徒を含め、授業が分かりやすかった・面白かったという感想をもっている例が多くあり、ICTを活用した双方向的な授業の効果は大きいと考える。授業進度を維持することや、知識の定着を疎かにしてはいけないことなどの課題も考慮しつつ、今後も授業改善を重ねていきたい。



図 地理 A の授業風景

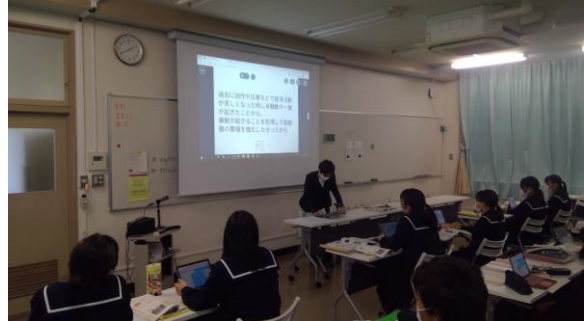


図 日本史 A の授業風景

### 公開授業に対する生徒の反応

11月16日(火)に、本校において公開授業および研究協議会が実施された。研究授業を実施したのは今年度の重点科目である「地歴公民科・保健体育科」であり、知多地区の各校から20名あまりの先生方が来校された。

各教科の授業担当者が創意工夫を凝らした授業を実施した。授業を受けた生徒が記入した生徒用アンケートの結果まとめが以下の通りである。

#### 1年 地理A

問1 今日の授業を通じて、何がわかりましたか。どのようなことが理解できましたか。

- ・ヨーロッパの国の中でもその地域に合った食文化が発達していったこと。
- ・フランスは土地の条件がよいので、たくさんの農作物がとれる。
- ・フランス料理を通して、フランスの土地の性質や環境について理解できた。
- ・ヨーロッパの気候や位置に関係づけているいろいろなことを覚えることができた。
- ・料理の発展には、気候や土地などのさまざまな要因があること。等

問2 先生や周りの生徒を通して、自分にとってどのような学びがありましたか。

- ・自分にはない考え方を学べた。
- ・人によって同じ事柄でも違う認識を持つことを学んだ。
- ・食のどこに重点をおいているのかの違いがわかった。
- ・自分の知らなかったことを周りの人と一緒に調べて、深く知ることができた。
- ・ヨーロッパについてはあまり考える機会がなかったが、周りの人と会話することでより深く知りたいと思えた。等

問3 今回の授業を通じて、今後自分でもさらに学習しよう、調べようと思ったことを書いてください。

- ・教科書などに書いていない地域の特徴とその理由。
- ・世界三大料理であるトルコ料理について詳しく調べたい。
- ・トルコやヨーロッパの国々の特色を比べ、海に接しているかどうかや特産物について関連付けたい。
- ・（ヨーロッパ以外の）世界各国でなぜその料理が発展してきたのか。等

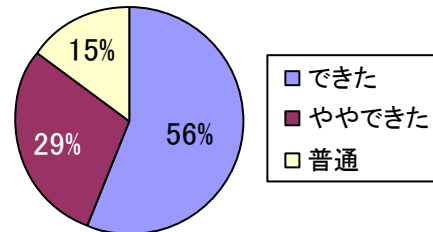
問4 今後、どのような授業だと興味・関心をもって受けることができますか。

- ・クラスの人などの意見を匿名でよいので見たい。
- ・写真や動画があると覚えやすいと思う。
- ・自分たちが食べるなら？などの身近だけど、いろいろな発見や驚きが存在することをテーマにする。
- ・タブレットを使った授業。
- ・頭を使う、作業にならない授業。
- ・多方面と関連した幅の広い授業。

- ・(今回の) 授業で行ったようなクイズやアンケートなどを取り入れると、もっと授業が楽しく受けられると思う。
- ・今回のようにクラス全体でタブレットを活用し、それぞれ話し合い、情報を共有する授業。
- ・周りの人との意見交流や、それらをタブレットでまとめて発表する授業。等

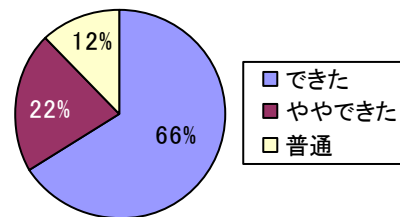
問5 主体的に授業に参加できましたか。

選択肢	人数
できた	23
ややできた	12
普通	6
あまりできなかった	0
できなかった	0



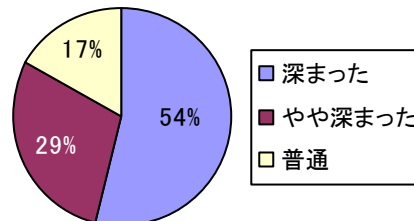
問6 先生や周りの生徒との意見交換等を通して、学びを深められましたか。

選択肢	人数
できた	27
ややできた	9
普通	5
あまりできなかった	0
できなかった	0



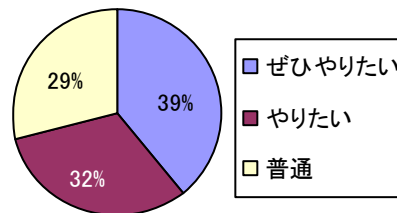
問7 今回の授業を通して、内容の理解は深まりましたか。

選択肢	人数
深まった	22
やや深まった	12
普通	7
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0



問8 今回の取り組みは、機会があればまた行いたいですか。

選択肢	人数
ぜひやりたい	16
やりたい	13
普通	12
あまりやりたくない	0
やりたくない	0



## 2年 日本史A

問1 今日の授業を通じて、何がわかりましたか。どのようなことが理解できましたか。

- ・関東大震災の詳しい内容と、その後の出来事。
- ・災害が起こった時の人々の気持ちを考えることができた。
- ・戒厳令とは何なのかとデマはなぜ流れるのかを学んだ。等

問2 先生や周りの生徒を通して、自分にとってどのような学びがありましたか。

- ・一人一人意見が違って、違う観点から問題を考えることができた。
- ・自分の意見を班のみんなに伝えるのが難しく、コミュニケーションをとることは大切だと思った。
- ・インターネットの情報は鵜呑みにしない。
- ・言葉は聞いたことがあっても、正しく理解できていないこともあったから、覚えなおしができてよかった。等

問3 今回の授業を通じて、今後自分でもさらに学習しよう、調べようと思ったことを書いてください。

- ・災害が起きた際の対応を家族で話し合ってみようと思った。
- ・関東大震災がその時代の人々にどんな影響をもたらしたか。また、都市圏での地震だったので、



世界にも影響があったのか調べてみようと思った。

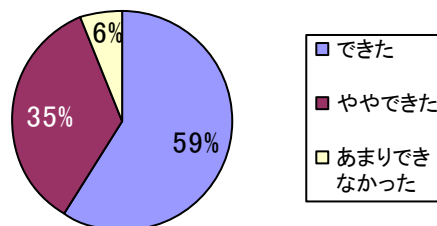
- ・「減災」の取組を「防災」と理解していたので誤った知識だったと気づき、減災について再確認しようと思った。
- ・海外でも日本と同じような戒厳令やデマが流れているか気になった。等

**問4 今後、どのような授業だと興味・関心をもって受けることができますか。**

- ・ただ暗記するだけではなく、意味と関連付けるなど、考えて学ぶ授業。
- ・自分たちの生活にも関わる内容。
- ・テーマ、目標がしっかりと決まっている授業。
- ・タブレット端末を活用した授業。
- ・今回のように身近なことについての授業。
- ・話し合いがある授業だと、意見を共有できるから興味をもてると思う。等

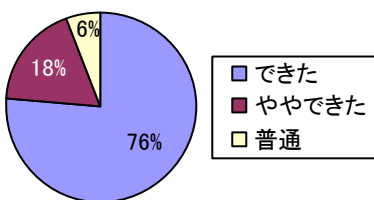
**問5 主体的に授業に参加できましたか。**

選択肢	人数
できた	10
ややできた	6
普通	0
あまりできなかった	1
できなかった	0



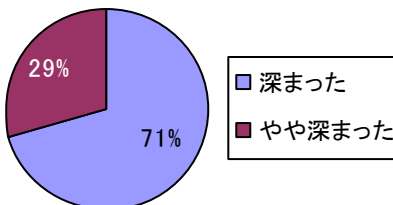
**問6 先生や周りの生徒との意見交換等を通して、学びを深められましたか。**

選択肢	人数
できた	13
ややできた	3
普通	1
あまりできなかった	0
できなかった	0



**問7 今回の授業を通して、内容の理解は深まりましたか。**

選択肢	人数
深まった	12
やや深まった	5
普通	0
あまり理解できなかった	0
理解できなかった	0



**問8 今回の取り組みは、機会があればまた行いたいですか。**

選択肢	人数
ぜひやりたい	6
やりたい	7
普通	3
あまりやりたくない	1
やりたくない	0

